

ず〜むあっぷ★

オホーツク

株式会社ホナミのたまねぎ畑（訓子府町）

元Jリーガー、畑作農家へ第二のキックオフ！

『株式会社ホナミ』 代表取締役 磐瀬 剛（訓子府町）

イワセ ゴウ クンネップチョウ

代表取締役 磐瀬 剛 氏の経歴

2011年（高校1年）	・第90回全国高校サッカー選手権大会優勝、優秀選手に選出 ・日本高校選抜に選出
2014年（18歳）	京都サンガF.C.へ加入
2016年 ～ 2024年	FC岐阜、ザスパクサツ群馬、安山グリーナースFC（韓国）などでプレー
2024年（29歳）	現役引退
2025年1月（29歳）	酪農法人 株式会社龍田牧場（訓子府町）へ雇用就農
2026年2月（30歳）	株式会社ホナミ（訓子府町）の代表取締役に就任



現在（上段）と選手時代（下段）の磐瀬氏

支えられた人生から、農業で恩返し

磐瀬氏は、韓国でプレーしていた25歳頃からセカンドキャリアを意識し始め、長年抱えてきた足のけがの影響により競技継続が困難となったことなどから、29歳で迎えた2024年シーズンをもって現役引退を決意しました。

「これまでサッカーを通じて多くの人に支えられてきた経験から、今後は人を支える仕事で恩返しをしたい」との考えから、農家への転身を志しました。

「農業といえば北海道」という思いを抱く中で、転職エージェントの勧めもあり、2025年1月に、飼養頭数1,100頭を有する訓子府町の酪農法人・株式会社龍田牧場(以下「同牧場」という。)に雇用就農しました。

2026年2月には、同牧場の子会社として設立された畑作経営部門の株式会社ホナミ(以下「同社」という。)の代表取締役に就任しました。

現在は、同社において、たまねぎ7haとメロン（ハウス2.5棟）の栽培に取り組んでいます。

たまねぎ畑の様子
（6月中旬）「ほなみメロン」
として7月下旬頃
から出荷予定



株式会社龍田牧場の給餌風景

⚽ 挑戦の舞台はピッチから牧場へ

北海道の牧場への雇用就農にあたり、磐瀬氏が特に苦労したのは生活環境への適応でした。千葉県出身であるため、北海道の厳しい寒さや雪道の運転は苦労したとのこと。

一方、酪農作業については、当初「休みがなく大変な仕事」という印象を抱いていましたが、早朝からの作業に慣れる必要はあったものの、実際には一日のローテーションの中に休憩や空き時間もあり、作業面で大きな苦労を感じることは少なかったとのこと。

「サッカー選手時代は、日々の行動やトレーニング内容を自分自身で管理できる環境でした。一方牧場では、上司の判断や指示に基づいて作業を進める必要があります。自らの責任や役割を意識しながら組織の一員として働かなければなりません。その点に大きな違いを感じました」と磐瀬氏は語ります。

⚽ アスリートの経験を力に、農業経営者へ挑戦

代表取締役の就任の背景には、同牧場が、酪農経営に加え畑作にも取り組む構想を持っていたことがあります。

雇用就農から約1年後、同牧場が近隣のたまねぎ農家から経営基盤を引き継ぎ、子会社として同社を設立し、磐瀬氏を代表取締役に抜擢しました。

同牧場の従業員だった頃から、将来的に経営者としての自立を見据え、北見市端野町のたまねぎ農家のもとで約2か月の研修を受け、植え付けから収穫までの技術を学んでいました。

アスリートと農業の共通点について、「アスリートは自らの体を鍛え、努力した分だけ成果として表れます。農業も同じで丁寧に手をかけた分だけ作物はしっかりと育ちます。両者には共通する部分が多く、アスリートとして培った経験や姿勢は、農業においても活かすことができます」と語ります。



たまねぎの移植作業の様子（4月中旬）

⚽ 農業経営者としての苦労

最も苦労しているのは資金管理とのこと。農業収入はたまねぎとメロンの年2回に限られる一方、農機具の更新や設備投資には多額の費用を要するため、資金繰りが大きな課題となっています。

⚽ セカンドキャリアに農業を

磐瀬氏は、「農業はあまり稼げないというイメージがありますが、北海道の農業現場は必ずしもそうではありません。このイメージが払拭されれば、農業をセカンドキャリアとして選ぶアスリートは増えると思います」と語ります。

⚽ 今後の経営ビジョン—200haへの挑戦

将来的には大豆など新たな品目の導入を進め、経営面積を200haまで拡大することを目指しています。また、農作物の保管倉庫を整備し、消費者への直売など自社で一貫して行える体制を構築したいと考えています。

「アス→ノウ」プロジェクト

農業界でのアスリートの活躍が農業界及びスポーツ界が抱える課題の解決につながるという考えから、2024年7月、農業界でのアスリートの活躍を後押しする施策の検討のため始まったプロジェクト。



株式会社ホナミ ECサイト →



Instagram →

